

2023

6.7 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_Bni1u38QQQamgKX32smeuQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

軽くて強い、安くて美しい： 日本とアジアにおける建築デザインの実践

司会：横田 文彦 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)



Key Words

建築

デザイン

社会実装

アジア

岩元 真明 助教

九州大学 芸術工学研究院 環境設計部門

九州大学大学院芸術工学研究院助教、建築家。1982年東京都生まれ。2006年シュトゥットガルト大学 ILEK 研究員。2008年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。難波和彦+界 工作舎 スタッフ、Vo Trong Nghia Architects パートナーを経て、2015年 ICADA を共同設立。2015年首都大学東京特任助教、2016年より現職。博士(工学)。アジア近現代建築史に取り組み、ヴァン・モリヴァンと葉祥栄の作家論研究を行っている。建築作品に《節穴の家》《TRIAXIS 須磨海岸》《九州大学バイオフィードラボ》《オーゼティック・パピリオン》等。訳書にロベルト・ガルジャーニ著『レム・コールハース／OMA 驚異の構築』(鹿島出版会)。日本建築設計学会 architects of the year (2018)、日本空間デザイン賞金賞・銅賞(2019)、ウッドデザイン賞優秀賞 林野庁長官賞(2021)、福岡県木造・木質化建築賞優秀賞(2023)、iF Design Award (2023) など受賞多数。

少ない材料を使って大きな空間をつくりたい。安い材料を使って美しい空間をつくりたい。地場の材料と技術を使って循環可能なシステムをつくりたい。岩元真明研究室では、このような関心から日々、研究、設計、社会実装を行っています。本セミナーでは「節穴の家」(2017, ADAN architects of the year)、「TRIAXIS 須磨海岸」(2018, 日本空間デザイン賞金賞)、「九州大学バイオフィードラボ」(2019, 日本空間デザイン賞銅賞)、「オーゼティック・パピリオン」(2022, iF Design Award) 等の作品を解説し、日本とアジアにおける岩元研究室の実践を紹介します。

2023

6.14 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_spVR9WYcQmujDWiQsnWM0Q

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

言語学 × 脳科学で 言葉と脳の謎に挑む

司会：錢 琨 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)



Key Words

言葉

脳

脳科学実験

理論言語学

太田 真理 准教授

人文科学研究院 文学部門

山口県山口市出身です。2014年に東京大学大学院総合文化研究科で博士号を取得した後、同特任研究員、順天堂大学医学部助教を経て、2016年に九州大学大学院人文科学研究院・講師に着任しました。2017年から2018年まで日本学術振興会海外特別研究員として米国ニューヨーク大学で研究し、二度の育児休業を経て、2022年より現職に就きました。言語学の理論と脳科学の実験を組み合わせ、人だけが持つ言葉を支える脳の仕組みを明らかにすることを目指しています。また、言語障害、危機言語、外国語学習など、言葉と脳をキーワードに様々な分野の研究者と共同研究プロジェクトを進めてきました。最近では趣味と実益を兼ねて自分の子供が話す「不思議な日本語」を収集しています。

「私たち人間とは何者か？」という問いは、人文学、社会科学、自然科学の全てにとって重要な研究テーマです。私たちの研究室では、人間だけが持つ「言葉」を生み出す脳の仕組みを明らかにすることで、この問いに答えようとしています。言葉と脳の間関係を理解するために、私たちの研究室では、理論言語学に基づく仮説を脳科学の実験で検証する研究を進めてきました。本セミナーでは、言語障害、危機言語、外国語学習などを対象にした私たちの研究が明らかにしつつある、言葉を支える脳のメカニズムについての研究成果を紹介します。

2023

6.21 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_PNG8xyaURLupDBj4Fv_bvg

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

持続可能な食料・食肉生産を 世界の人たちと考えよう

司会：原田 明 教授 (Q-AOS 副機構長 兼 機構教育統括)



Key Words

食料問題

食肉

ニワトリ

動物発生学

農学国際教育

細胞生物学

中村 真子 教授

九州大学 農学研究院 附属国際農業教育・研究推進センター・大学院生物資源環境学府 動物生命科学分野



大阪生まれ、東京と広島で育ちました。2002年に大阪大学大学院医学研究科で博士号取得後、渡米しアメリカの研究機関で博士研究員として5年間勤務しました。2007年4月に九州大学大学院農学研究院に着任し今年で16年目を迎えます。私たちが食べている食肉を構成する細胞を用いて研究を行っています。現在はニワトリを実験モデルとし鶏肉生産に貢献できるように学生と一緒に研究に励んでいます。また、農学国際教育の推進に取り組んでおり海外短期プログラム開発にも携わっています。私の研究教育活動が次世代研究者育成にも貢献できればと思っており、QURIESプログラムおよびQFC-SP 高大接続プログラムの指導教員でもあります。これまでに4名の高校生の受け入れを行い研究指導した学生は九州大学、大阪大学に進学した実績を持っています。

世界の人々がサステナブルに食べ続けていくにはどうしたら良いのでしょうか？私たちは食べないと生きていくことができません。それにも関わらず食料問題は深刻化しています。私の研究テーマは人間にとって重要なタンパク質源である食肉に注目しています。私が食料問題を解決するため研究者としてどのような取り組みをしているのか、同時に海外協定校と一緒にいる留学プログラムを通じて世界の食料問題を学生にどう伝えているのかをみなさんにご紹介します。

2023

6.28 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_14fCCL5sSTaFTUZbDLJtqA

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

超新星爆発とニュートリノ

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)



Key Words

星

宇宙

物理

素粒子

中里 健一郎 准教授

九州大学 基幹教育院 自然科学理論系部門



早稲田大学理工学部物理学専攻卒業、2008年に早稲田大学で博士（理学）の学位を取得しました。主な専門は理論宇宙物理学で、現在はニュートリノや原子核といったミクロな物理過程と超新星爆発や中性子星といったマクロな天体現象をつなぐ研究を進めています。2015年より九州大学基幹教育院に着任。現職では主に基幹教育に携わっているほか、アクティブラーニング型科目の開発にも取り組んでいます。

超新星爆発は重い星がその生涯を終えるときに起こす宇宙で最も明るい現象であり、その明るさはピークで約1000億個の星から成る銀河に匹敵するほどです。我々の身近に存在する多様な元素は、この爆発によって宇宙空間に供給されたため、超新星は非常に重要な天体です。一方、ニュートリノは素粒子の一種で非常に軽く他の物質とほとんど反応しないという特徴を持っています。一見すると天体現象とは関係のなさそうなこのニュートリノが、実は超新星爆発において重要な役割を果たしています。本セミナーでは超新星爆発とニュートリノについての基本的な事柄から、講演者が研究に関わっている最近の話題までをお話したいと思います。